

---

# インサフィッシングボックス

とんつくたん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

インサフィッシングボックス

### 【Nコード】

N6700Y

### 【作者名】

とんつくたん

### 【あらすじ】

この世界は何かが足りない。  
そして何かが満たされていない・・・  
なにが足りないかは俺も分からない。  
でも、俺たちには何かが足りないんだ・・・

## 第0章0話（前書き）

どうも初投稿です。

この物語は何かが足りなく、何かを満たされていない物語。

果たして何か足りない世界は何か満たされないのか、お楽しみください。

## 第0章0話

箱庭学園屋上。

ここで俺の人生が大きくずれ始まることになる。

「それでは黒神めだか、始めようか」

「ああ始めようかいつはら巖原3年生」

ここにいる黒神さん 黒神めだか

めだかちゃんはこの俺、人吉善吉の幼馴染だ。

一言で言うとなけ物女。

まあその化け物女が屋上で何をこれから始めるかというところ、生徒会活動。否、決闘だ。

まあ掻い摘んで話すと箱庭学園の生徒会長であるめだかちゃんはいっしょにはあく巖原破屋と戦うことになった。

何故って？

説明が長くなるのでそこは控させてもらう。

「めだかちゃん死ぬなよ。」

「ああ」

めだかちゃんは大きくガッツポーズをする。

「それでは行くぞ黒神めだか」

「さあこい」

殴りあう二人。

正直、俺にも何が起こっているかいまいちわからない。

そしてわからないのはこの巖原の力だ。

力は未知数。

弱いのか強いのかすらわからない。

いったい彼は過負荷なのか、異常なのか。

だが見る限りではめだかちゃんの勝利は決定的で、絶対的で、必然的だった。

めだかちゃんがとどめの一撃を浴びせようとした時だった。

違和感に気付いたのは……

巖原が無抵抗であった。

「なあ黒神、知っているか？この世界と同じなのにこの世界と全く違う世界を」

「さあな！」

めだかちゃんは凄まじい一撃を巖原に叩き込んだ。そして力なく倒れている巖原に近寄った。

「私も行けたら行ってみたかったぞ。その世界に。」

巖原は不気味に笑った。

「じゃあ飛ばしてやるよ！その世界に！」

回ってはいけない運命の歯車が回りだした。

インサフィッシングボックス  
0章0話完……

## 第0章0話（後書き）

初投稿ですが、面白いとだけいただけたら幸いです。  
ぶっっちゃけ男です。  
ぶっっちゃけ厨2病です。  
よろしく願いますw

第1章1話『この高校に入ってくるとは』（前書き）

この世界にはもう彼女はいない  
いや、元からいなかった。

## 第1章1話『この高校に入ってくるとは』

今日は箱庭学園の入学式だ。

俺は今日からのこの高校に通うことになった。

それは俺の幼馴染が先輩にいるからだ。

『おはよ、善吉ちゃん』

『今日から君もこの生徒だね』

そう、この人こそが俺の幼馴染で現在3年生の  
球磨川楔くんだ。

「よう、楔君。こうやって一緒の高校に通えるとは思ってなかった  
ぜ」

『ははは。僕も善吉ちゃんがこの高校に入ってくるとは思ってなかったよ』

「今日からまたよろしくな！楔君！」

『ああ。じゃ善吉ちゃん僕は入学式の準備があるからそろそろ行く  
ね』

「じゃーな」

楔君はこの箱庭学園の生徒会長で、支持率98%で当選したらしい。  
さらにスポーツ万能で、全国模試では常に1位。

俺もその凄さは小さいころから一緒にいるのでよくわかる。

おそらく次の生徒会選挙でも生徒会長に立候補するものはいないの  
で、

楔君が生徒会長だろう。

俺は入学式会場に足を運んだ。

入学式は案外あっさりと終わった。

そして入学からしばらくたち新しい学校にもなじんできたころ、  
ついに生徒会選挙のシーズンがやってきた。

俺は書記に立候補した。

なんと、書記に立候補したのは俺一人だった。

そして当然当選。

理由は簡単だった。

生徒会長である球磨川楔について行ける人間はそうそういない。

俺はこれから起こることを何も知らずにただ楔君と一緒に生徒会に入れた、

ということだ。妙にはしゃいでいた。

第1章1話『この高校に入ってくるとは』（後書き）

まだ序盤はつまらないと思いますが、  
後半からは厨二全開で書いていきたいと思います。  
次回もお楽しみに・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6700y/>

---

インサフィッシングボックス

2011年11月20日18時02分発行